

後白河法皇御木像奉安

法住寺が最初に創建されたのは 989 年で、貴族の藤原家によって建てられたのだが、この寺の歴史は今では後白河法皇（1127～1192 年）と切っても切れない関係性がある。天皇在位はたったの 3 年間で、後白河は 1158 年に退位し、出家した。仏門に入るための様々な儀式を受けたのち、後白河は「法皇」の称号を得て、法住寺の近くに巨大な寺院・宮殿の建設に着手した。ここから、後白河は 30 年にわたって日本を統治することになる。今日、法住寺はこの寺院・宮殿の名前を引き継いでいる。後白河法皇の墓には、高名な彫刻家である運慶（1150～1223 年）によって 13 世紀初頭に彫られた後白河法皇像がある。像は金箔を貼ったキャビネットに納められ、一般には公開されていないが、寺の伝承によると、三十三間堂の 1001 体の観音菩薩像は、実際、この像のほうを向いているのだとされている。